



ルート フィルタの設定

ルート フィルタを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「ルート フィルタの設定値」 (P.30-1)
- 「ルート フィルタ条件の追加と編集」 (P.30-3)
- 「ルート フィルタ条件の削除」 (P.30-4)
- 「ルート フィルタと影響を受けるデバイスの同期化」 (P.30-4)
- 「ルート フィルタ タグの説明」 (P.30-5)
- 「関連項目」 (P.30-8)

ルート フィルタの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] メニュー パスを使用して、ルート フィルタを設定します。

ルート フィルタの設定では、ルート パターンまたはハント パイロットと連動して、ダイヤルされた数字列を使用し、コールの処理方法を決定します。ルート フィルタは、アットマーク (@) ワイルドカードを含むパターンを設定する場合に限り適用されます。ルート パターンまたはハント パイロットが @ ワイルドカードを含む場合、Cisco Unified Communications Manager は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで指定された番号計画に従って、コールを転送します。Cisco Unified Communications Manager で表示されるルート フィルタ ウィンドウは、選択する番号計画によって異なります。

ルート フィルタを使用すると、システム管理者は、ユーザがダイヤルできるルート パターンまたはハント パイロット、たとえば、ユーザが (101 に通信事業者アクセス コードを加えてダイヤルして) 長距離通信事業者を手動で選択できるかどうかを決定できます。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」を参照してください。



ヒント

まずルート フィルタを追加し、その定義をしておいてから、定義済みのルート フィルタをルート パターンまたはハント パイロットに追加してください。

ルート フィルタの設定のヒント

ルート フィルタを設定または更新した後、「[ルート フィルタと影響を受けるデバイスの同期化](#)」 (P.30-4) を参照してください。

ルートフィルタを設定または更新した後、ルートフィルタ条件を追加または編集するには、「[ルートフィルタ条件の追加と編集](#)」(P.30-3)を参照してください。ルートフィルタ条件を削除するには、「[ルートフィルタ条件の削除](#)」(P.30-4)を参照してください。

ルートフィルタの削除のヒント

ルートパターンまたはハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目が使用しているルートフィルタは、削除することができません。ルートフィルタを使用しているルートパターンやハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目を検索するには、[ルートフィルタの設定(Route Filter Configuration)] ウィンドウの[関連リンク(Related Links)] ドロップダウンリストボックスから[依存関係レコード(Dependency Records)]を選択し、[移動(Go)]をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2)を参照してください。使用中のルートフィルタを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からエラーメッセージが表示されます。現在使用されているルートフィルタを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目すべてに、別のルートフィルタを割り当てます。「[ルートパターンの設定値](#)」(P.33-1) および「[トランスレーションパターンの設定値](#)」(P.42-1)を参照してください。
- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、トランスレーションパターンなどの項目を削除します。「[ルートパターンの設定値](#)」(P.33-1) および「[トランスレーションパターンの削除のヒント](#)」(P.42-1)を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカルユーザインターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定値表

表 30-1 では、ルートフィルタの設定値について説明します。

表 30-1 ルートフィルタの設定値

フィールド	説明
[番号計画(Numbering Plan)]	ドロップダウンリストから、番号計画(たとえば、[North American Numbering Plan])を選択します。[次へ(Next)]をクリックします。
[ルートフィルタ情報(Route Filter Information)]	
[ルートフィルタ名(Route Filter Name)]	[ルートフィルタ名(Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、およびアンダースコア(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートフィルタ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。 (注) ルートフィルタには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートフィルタをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの Local Access Transport Area (LATA) 間の無料コール用のルートフィルタを特定します。

表 30-1 ルートフィルタの設定値 (続き)

フィールド	説明
[条件 (Clause Information)]	
[ルートフィルタタグ (Route Filter Tags)]	このルートフィルタの条件を作成するには、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。 AREA-CODE などのルートフィルタタグについては、「 ルートフィルタタグの説明 」(P.30-5)の表 30-2 を参照してください。
[ルートフィルタの演算子 (Route Filter Operators)]	このルートフィルタの条件を作成するには、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。 NOT-SELECTED などのルートフィルタ演算子については、「 ルートフィルタタグの説明 」(P.30-5)の表 30-3 を参照してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-8) を参照してください。

ルートフィルタ条件の追加と編集

ルートフィルタの条件を追加すると、論理 OR を使用して既存のタグに追加演算子と項目を組み込むことによって、既存のルートフィルタをさらに詳細に指定できます。ルートフィルタの条件を追加できるのは、最初に新規のルートフィルタを追加するとき、または既存のルートフィルタを更新するときのどちらかです。

ルートフィルタを編集すると、既存のルートフィルタ条件を変更できます。

既存のルートフィルタを構成するルートフィルタ条件を追加および編集する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。
- ステップ 2** ルートフィルタ条件を追加または編集する先のルートフィルタを特定します。
- ステップ 3** ルートフィルタ条件を追加する場合は、[条件の追加 (Add Clause)] をクリックして、新しいルートフィルタ条件のデータ入力ウィンドウを表示します。この新しい条件のすべての演算子フィールドには、「NOT-SELECTED」と表示されます。
- ステップ 4** このルートフィルタの追加条件を作成するために、必要に応じて、ルートフィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) [North American Numbering Plan] のルートフィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、「[ルートフィルタタグの説明](#)」(P.30-5) を参照してください。

- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックして、条件を追加します。
新しい条件は、ウィンドウ上の既存の条件の下に表示されます (必要に応じて下方にスクロールして、新しい情報を表示してください)。
- ステップ 6** 既存のルートフィルタ条件を編集する場合は、編集するルートフィルタ条件の真上にある [条件の編集 (Edit Clause)] ボタンをクリックします。[ルートフィルタ条件の設定 (Route Filter Clause Configuration)] ウィンドウが開き、選択したルートフィルタ条件の現在の定義が表示されます。

- ステップ 7** 選択したルート フィルタ条件を編集するには、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を変更し、データを入力します。



(注) [North American Numbering Plan] のルート フィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、「[ルート フィルタ タグの説明](#)」(P.30-5) を参照してください。

- ステップ 8** [保存(Save)] をクリックして、このルート フィルタ条件の変更内容を保存します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-8) を参照してください。

ルート フィルタ条件の削除

ルート フィルタの条件を削除できるのは、新規ルート フィルタのセットアップ時、または既存ルート フィルタの更新時のどちらかです。既存のルート フィルタからルート フィルタ条件を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルート フィルタ条件が含まれているルート フィルタを特定します。
- ステップ 3** 削除する条件の先頭までスクロール ダウンし、[条件の削除 (Remove Clause)] をクリックします。このルート フィルタ条件を削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。



注意

各 [条件の削除 (Remove Clause)] ボタンは、そのボタンのすぐ下にある条件に適用されます。条件を削除するときは、削除する条件が正しいか慎重に確認してください。削除した条件を元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した条件を作成し直す必要があります。

- ステップ 4** 条件を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified Communications Manager により、条件がルート フィルタから削除されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-8) を参照してください。

ルート フィルタと影響を受けるデバイスの同期化

設定変更されたルート フィルタとデバイスを同期させるには、次の手順を行います。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートフィルタ (Route Filter)] の順に選択します。
[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するルート フィルタがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 該当するデバイスと同期化するルート フィルタをクリックします。[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 他の設定変更を行います。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。



(注) ルート フィルタに関連付けられたデバイスを必要に応じてリセットすると、該当ゲートウェイのコールが欠落します。

- ステップ 8** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.30-8) を参照してください。

ルート フィルタ タグの説明

タグは、ルート フィルタのコア コンポーネントです。タグでは、ダイヤルされる数字列の一部に名前を適用しています。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 は、LOCAL-AREA-CODE (972)、OFFICE-CODE (555)、および SUBSCRIBER (1234) ルート フィルタ タグで構成されています。

ルート フィルタ タグには、演算子が必要であり、フィルタに掛けるコールを決定するには、その他の値も必要な場合があります。

ルート フィルタ タグのフィールドでの値には、ワイルドカード文字 X、*、#、[、]、-、^、および 0 ~ 9 の数字が使用できます (ワイルドカード文字の定義については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」にある表 14-5 を参照してください)。表 30-2 の説明では、実際の数字を表すために [2-9] と XXXX という表記を使用しています。この表記では、[2-9] は、2 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表し、X は、0 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表します。したがって、「[2-9]XX の形式の 3 桁のエリア コード」という記述は、実際の数字 200 ~ 999、またはすべてのワイルドカード、または結果としてその範囲のパターンになる実際の数字とワイルドカードの任意の組み合わせを入力できるという意味です。

ルートフィルタ タグは、[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウの [番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。表 30-2 では、[North American Numbering Plan] のルートフィルタ タグについて説明します。

表 30-2 ルートフィルタ タグ

タグ	説明
AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のエリア コードは、長距離コールのエリア コードを指定します。
COUNTRY CODE	この 1 桁、2 桁、または 3 桁のコードは、国際コールの宛先国を指定します。
END-OF-DIALING	この 1 文字は、ダイヤルされた数字列の末尾を指定します。NANP 内でダイヤルされる国際番号には、# 文字がダイヤル終了信号として使用されます。
INTERNATIONAL-ACCESS	この 2 桁のアクセス コードは、国際ダイヤルを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 01 を使用します。
INTERNATIONAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 1 を使用します。
INTERNATIONAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由の国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 0 を指定します。
LOCAL-AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のローカル エリア コードは、10 桁のローカル コールのローカル エリア コードを指定します。
LOCAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされるローカル コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LOCAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由のローカル コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 0 を使用します。
LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる長距離コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LONG-DISTANCE-OPERATOR	この 1 桁または 2 桁のコードは、NANP 内のオペレータ経由の長距離コールを指定します。オペレータ経由のコールでは、このコードに 0 を使用し、オペレータにアクセスするには 00 を使用します。
NATIONAL-NUMBER	このタグは、国際コール用の数字列の中の、各国固有の部分を指定します。
OFFICE-CODE	このタグは、7 桁の電話番号の最初の 3 桁 ([2-9]XX の形式) を指定します。
SATELLITE-SERVICE	この 1 桁のコードは、国際コール用の衛星接続にアクセスできるようにします。
SERVICE	この 3 桁のコードは、緊急用の 911、修理サービス用の 611、問い合わせ用の 411 を指定します。
SUBSCRIBER	このタグは、7 桁の電話番号の最後の 4 桁 (XXXX の形式) を指定します。

表 30-2 ルートフィルタ タグ (続き)

タグ	説明
TRANSIT-NETWORK	この 4 桁の値は、長距離通信事業者を識別します。 TRANSIT-NETWORK 値には、先行する 101 通信事業者アクセスコード接頭部を指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK-ESCAPE を参照してください。
TRANSIT-NETWORK-ESCAPE	この 3 桁の値は、長距離通信事業者 ID に先行します。このフィールドの値には 101 が指定されています。 TRANSIT-NETWORK-ESCAPE 値に、4 桁の通信事業者識別コードを指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK を参照してください。

ルートフィルタタグの演算子は、そのタグに関連したダイヤル数字列の有無、さらに、場合によってはそのダイヤル数字列の内容に基づいて、コールがフィルタに掛けられるかどうかを決定します。演算子 EXISTS および DOES-NOT-EXIST は、ダイヤル数字列のその部分が存在するかどうかだけをチェックします。演算子 == は、実際にダイヤルされる数字を、指定された値またはパターンと突き合わせます。表 30-3 では、ルートフィルタタグで使用される演算子について説明します。

表 30-3 ルートフィルタの演算子

演算子	説明
NOT-SELECTED	このタグに関連したダイヤル数字列に基づいて、コールをフィルタに掛けないことを指定します。 (注) この演算子が関連付けられるタグの有無により、Cisco Unified Communications Manager によるコールの転送が妨げられることはありません。
EXISTS	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されたときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がある場合だけです。
DOES-NOT-EXIST	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されないときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がない場合だけです。
==	このタグに関連したダイヤル数字列が、指定された値と一致するときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列があり、その数字列が、付加されているフィールドで指定された番号の範囲内である場合だけです。

**注意**

演算子 EXISTS、DOES-NOT-EXIST、または NOT-SELECTED を使用しているタグには、ルートフィルタタグ値を入力しないでください。

例

例 1 : AREA-CODE と演算子 DOES-NOT-EXIST を使用するルート フィルタは、エリア コードを含まないすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 2 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 515 を使用するルート フィルタは、エリア コード 515 を含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 3 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 5[2-9]X を使用するルート フィルタは、520 ~ 599 の範囲のエリア コードを含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 4 : TRANSIT-NETWORK、演算子 ==、および項目 0288 を使用するルート フィルタは、通信事業者アクセス コード 1010288 を持つすべてのダイヤル数字列を選択します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.30-8) を参照してください。

関連項目

- 「[ルート フィルタの設定](#)」(P.30-1)
- 「[ルート フィルタの設定値](#)」(P.30-1)
- 「[ルート フィルタ条件の追加と編集](#)」(P.30-3)
- 「[ルート フィルタ条件の削除](#)」(P.30-4)
- 「[ルート フィルタと影響を受けるデバイスの同期化](#)」(P.30-4)
- 「[ルート フィルタ タグの説明](#)」(P.30-5)
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[ルート プランの概要](#)」